作成日：２０２４年8月２６日

授業科目名	如水会寄附講義「如水ゼミ」			
ゼミ名	国際関係			
講師幹事名	鈴木庸一		大学教員	全学共通教育センター長　南　裕子
学　期	R6(2024)年　春夏　・　秋冬	**開講時間**	水曜　４～５時限	

【授業の目的・到達目標】

外交官とはどのような職業/活動かを理解する。国連の機能不全が懸念されるなどルールに基づく国際秩序の維持は大きな挑戦を受けている。この数年のコロナ禍の世界的蔓延、ロシアによるウクライナ侵攻、ガザの巡る紛争と中東における緊張の高まりと言った現象は国際社会の在り方にどのような影響を与えているのか？2024 年は世界に人口の約半数が関係する大きな選挙の年。特に先進民主主義国は大きなストレスを受けている。複雑化する国際情勢、温暖化や人道危機など深刻化する地球規模の課題、不透明感を増す地政学的状況の中で**断片的、近視眼的、皮相的なマスコミ報道や SNS 等により拡散される情報の裏にある国際社会の力学の本質を理解する目を養い、日本の利益を守る外交活動を理解し評価する視座を形成する。**

【上記目的・目標達成方法】

外務省ＯＢ及び現役外務省員の各講師が日本の抱える主要外交課題について分担して解説し、自らの経験を基に国内での政策調整、海外の外交現場での外交折衝などの活動を具体的に紹介する中でそれらについての考察と理解を深める。またその一環として講師とゼミの学生のインターアクティブな議論、ロールプレイ等を行いゼミテンの主体的参加の機会を設ける。

【授業の内容と計画】

月日	講師名	卒年 学部	社名・役職 （※役職は作成日現在）	講義内容
9/25 （4，5限） @一橋	鈴木庸一	S50 法学部	元駐フランス大使 元外務省経済局長 日本国際問題研究所客員研究員	（4 限）　オリエンテーション：日本外交の主要課題 （5 限）ケーススタディ：経済外交交渉・多角的貿易体制とその制約要因 （世界貿易機関（WTO）次席日本代表や日 EU 経済連携協定交渉の首席交渉官を経験した立場から論じる）。 ㊟9/25 講義を行えない可能性があり、その場合は 12/4 に行う。
10/2 （4，5限） @一橋	坂本　紗恵子	H24（法）	外務省国際法局社会条約官室 課長補佐	［4 限］外交とグルーピング、拡大する人権 国際社会においては、分野を超えて、あるいは分野毎に、様々な形の仲間作り＝グルーピングがあり、重層的な構造の中で国益を追求していることに触れつつ、日本の立ち位置を考える。また、日本の人権外交の基本方針を概説し、昨今の人権理事会の決議を例に、規範形成や理想と現実のバランスについて考える。 ［5 限］ロールプレイ ある国の人権状況悪化に対してどのように対応するか、政府及びその他のアクターの役割を割り当てて検討し、発表する
10/9 （4，5限） @一橋	神谷　政廣	H24（経） 政	外務省大臣官房総務課 課長補佐	［4 限］外務省の組織体制に関する概要説明。 ［5 限］エネルギー安全保障と気候変動外交の現状と課題について論じる。

10/16 @一橋 10/23 @学外 （予定）	川村 泰久	S56（法）	元国連大使 前駐カナダ大使 元駐インド公使 元外務報道官（安倍総理対外スポークス パーソン） 国連日本ユネスコ国内委員会委員	**（10/16）4 限のみ(15:15-17:00)）講義「インド太平洋の安全保障と日本」** ウクライナ侵略に対して無力だと批判される国連、東・南シナ海で横行する国際法の蹂躙、威圧的な経済政策と高まる保護主義、加えて 11 月の米国大統領選挙もあり、日本とインド太平洋の安定と繁栄が依拠する国際秩序の行方に不確実性が増しています。2010 年以降国際秩序が受けてきた挑戦に焦点をあてながら、今後 2050 年までを見通して日本とインド太平洋の安全保障のあり方と国際秩序の行方について講義します。未だ議論されていないミドルパワーやグローバルサウスの国々（カナダ、ASEAN、インド）の役割にもスポットライトを当てます。 **（10/23）5 限（17:00-18:55*学外ゼミ：国際会議に使用する会議場でのゼミ実施を検討中）** **演習「世界の平和と安定に向けての日本とインド太平洋主要国の貢献」** 講義で基礎的な知識を得た後は、当方でテーマを与えますので、「拡大太平洋」会議（ASEAN 各国と日・米・中・インド・カナダなどの諸国）に各国大使としてバーチャルに出席し、新しい世界の在り方を提案・議論して下さい。国際会議でのプレゼンテーション、そして各国の利害を調整して一つの結論に導いていく外交を体験して下さい。
10/30 @一橋	竹内　春久	S50（経）	元駐シンガポール大使	［４限］日本外交の基本的立ち位置： 日本の置かれた地理的、地政学的条件を概観し、日本国憲法のもとにおける外交の制度的枠組み、指導原則を論ずる。 ［５限］日本と近隣諸国との関係： テーマ「戦後の日本と近隣諸国との関係」 概要： 戦後の日本と近隣諸国との関係を中国、朝鮮半島との関係を中心に概観する。
11/6 11/13 （両日とも 5 限のみ） @一橋	齊藤　貢	S55（社）	元オマーン大使 元イラン大使 東洋英和女学院大学非常勤講師、 国士舞 大学非常勤講師、 岡崎研究所コメンテーター	外務省は政策官庁ですが、正しい政策の立案のためには正確な情報収集と分析が必要不可欠です。講師は中東を中心に長年、情報分析に携わって来ました。 11 月 6 日の講義では、昨年 10 月のガザでの衝突以来、緊張を高めている中東情勢の最新の状況と現在も続く中東の不安定さの原因となったオスマン・トルコ解体後の中東近代史について解説し、90%以上の原油輸入を中東に依存している日本の対中東政策について講義します。講師は、中東 7 ヶ国で勤務し、また、英オックスフォード大学と米コロンビア大学の中東研究所にも留学しました。 11 月 13 日の講義では、タイ情勢について最新の政治経済情勢について解説し、その歴史的背景について講義します。タイには数千社の日本企業が進出し、日本経済にとり極めて重要な国です。 外交官は任国の理解が必要不可欠ですが、特にその国の歴史を理解する事が非常に重要だと講師は考えています。

11/27 12/11 （4，5限） @一橋	角　茂樹	S52（商）	玉川大学、岩手大学、上智大学、 川村学園女子大学　客員教授 元ウイーン代表部、国連、バーレーン、ウクライナ大使	日本の安全保障: PKO 室長、防衛庁（当時）部員を務めた経験から、日本の安全保障に関して PKO 法、安保法制を武力の行使と武器の使用の観点から説明します。 ウクライナ情勢: 元ウクライナ大使の視点からロシアのウクライナ侵攻の原因、国際社会に与える影響について議論します。戦争法規（Jus ad Belum）、人道法規(Jus in Bello)の観点からロシアのウクライナ　侵略がいかに現在の法秩序を崩壊させるものであるかについて論じます。日本への影響として憲法9条と国際法との関係についても触れたいと思います。 人権と人道法:: 中国の人権問題が問題にされていますが、そもそも人権とは、何かにつて元ジュネーブ人権委員会（現人権理事会）の日本政府代表を務めた経験から論じます。なぜ人権が重要なのかについて中世キリスト教神学にさかのぼり、世界人権宣言を中心に論じたいと思います。韓国との慰安婦の問題につて、これを外交的にどのようにとらえるかについても論じます。 いずれの授業において、外交官の役割についても触れたいと思います。
12/4 （4，5限） @一橋 予備日	鈴木庸一	9/25 と同じ	9/25 と同じ	**9/25 の講義を行えない場合**にその内容を行う。 （尚その際 4 限はオリエンテーションではなくそれまでに行われた講義を踏まえて日本外交の喫緊の主要課題について整理する講義とする）。
12/18 （4，5限） @学外 （予定）	鈴木庸一	同上	同上	4 限：EU(欧州連合)の対外政策と日本の外交政策に EU との連携が持つ意味を考える。 5 限：秋冬学期のゼミ全体で取り上げられた論点について討議形式で考察する。 ㊟学外ゼミとする可能性あり。その場合は 5 限のみとし、5 限の時間的枠内で上記の 4、5 限の内容を討議形式で行う。

【参考文献】
下記図書のうちそれぞれの講師が個別に推薦するものはその旨括弧内に記載してありますが、今回の国際関係ゼミの一連の講義は相互に関連しており、また特定の事象を複数の講義で様々な角度から取り上げるところがあるので、いずれの参考文献図書も読んでおくことはゼミ全体を通じて有益です。尚各講師が特定の講義に臨むに当たり特に読んでおいた方が良いと考える図書や部分がある場合にはゼミ学生幹事より改めて連絡することがあります。

- 外交青書及び防衛白書（主として総論部分）
- 日本国際問題研究所　戦略年次報告　（日本国際問題研究所 HP より無料で見ることが出来る）
- Joseph S Nye, Jr.: Soft Power（要旨はネットで検索可能）外交の本質を理解する上で有益
- 岡本行夫「現場主義の貫いた外交官」(朝日文庫) 現場感覚を持って外交官の問題意識を理解する上で有益
- 「危機の外交　岡本行夫自伝」(新潮社)
- 「ウクライナ侵攻とロシア正教会」角茂樹著　河出夢新書（角講師推薦）
- 五百旗頭真（編）『戦後日本外交史』第三版補訂版、有斐閣アルマ　2014 年（竹内講師推薦）
- 田中明彦『アジアの中の日本』（日本の＜現代＞２）２００７年 NTT 出版　（同上）
- 国分良成他『日中関係史』、有斐閣アルマ、2013 年　（同上）
- 齊藤貢、2022 年、「イランは脅威か―ホルムズ海峡の大国と日本外交」、岩波書店　（齊藤講師推薦）
- 酒井啓子、2013 年、「中東の考え方」、講談社　（同上）
- 池内恵、2016 年、「中東の大混迷を解く　サイクス・ピコ協定 100 年の呪縛」、新潮社　（同上）
- 「国際連合」明石康著 岩波新書　（川村講師推薦）
- 「ウクライナ戦争から見えてきた実現可能な安保理改革とは」　神余隆博　一般社団法人霞関会 (kasumigasekikai.or.jp) 2023 年 9 月霞関会 HP 掲載（同上）
- 「米中対立」 佐橋亮著 中公新書　（同上）
- 「国際秩序」ヘンリー・キッシンジャー著（2022 年 日経 BP 社）（同上）
- 「The Room It Happened-A White House Memoir」John Bolton 著 2020 年,Simon & Shuster 社　（同上）

【受講生に対するメッセージ、希望】
- 本ゼミを通じて国際情勢を理解する目を養うと同時に外交官と言う職業はどのようなものについての理解を持ってもらいたいと思います。
- 学生幹事を通じて講師より事前に課題が出される場合は準備してゼミに臨んでください。
- 基本は各講義とも前半は基本的知識についての講義、後半はラウンドテーブル形式の議論と言う構成になります。議論への積極的な参加を期待します。
- 各講義について自分なりの疑問点、特に関心のある問題について議論したいことを予め整理しておくと良いと思います。ゼミテンからの質問や問題提起があればそれを受けて講義を進めます。基本的な質問、初歩的な質問を歓迎します。
- 現役外務省員講師の講義日程については外交日程等の都合により変更の可能性があります。
- ある程度の数の希望者がいれば締めくくの総括講義に換えて講師一同と学生の間での軽食を挟んでの気軽な懇親の機会をゼミの終盤に如水会館で設けます。